

2017 年度 (平成 29 年度) 学校評価自己評価表

大門	中学校区	校番	福山市立 大津野小 学校
最終更新日		2017年(平成29年)4月3日	

I 福山市
 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・力量ある教職員の育成 ・地域行事への参加等により地域を愛する児童生徒の育成	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
	・思考力・表現力が弱い。 ・自尊感情の低い児童生徒が固定化している。 ・欠席率は低いが、体力向上ができていない。 ・目的意識をもった地域行事等への参加が不十分である。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自ら考え、学び、自尊感情の高い生徒
	中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画（年間指導計画一覧表）に基づく「見せる・見る授業」を実施する。 書く活動を1時間の授業の中に位置づける。 自尊感情を高める取組を継続する。 レーダーチャートを活用し学級力を高める取組をする。（年4回アンケート実施） 家庭学習ががんばり週間後の漢字確認テストを校区3小学校で作成・実施する。 	

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)				
見えない「人間の根っこ（学問・社会性）」を育てる		課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力	
学校教育目標		めざす子ども像	1・2年	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えを持ち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
大きく広げる知識 積み上げる伝統 のばす体力			3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
現 状			5・6年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標を持ち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
教科等		研究	国語科・特別活動	主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり ～課題発見・解決学習と協働の学びを通して～		
研究		主題・内容等	自ら考え、学び、友達と協働しながらともに高まり合う授業 ・自分の考えを根拠をもとに書くことができる授業 ・児童が互いに学び合い、「わかった」「できた」「学びが深まった」と実感できる授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大津野小 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）			
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
1	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成		継続	国語科・算数科における基礎学力を高める【思】	C児童への具体的な手立てを個別計画を立て、行う。	国語科の単元テストの全観点において、60%未満の児童を低学年6%,中学年9%,高学年12%未満にする。【単元テスト】								
				算数科の単元テストの「技能」観点において、60%未満の児童を低学年6%,中学年9%,高学年12%未満にする。【単元テスト】										
		★	見直し	思考力・判断力・表現力を育てる【思】	思考やまとめの場面で教科用語等キーワードを提示する。	めあてに対するまとめや振り返りが書ける児童を低学年60%以上,中学年70%以上,高学年80%以上にする。【児童ノート】								
1	主体性・積極性の育成	★	新規	自ら考え、動く児童を育てる【課】【主】	OPT（大津野プロジェクトタイム）を月1回実施する。	学級力をレーダーチャートにおける「目標達成力」を80%以上にする。【毎月のレーダーチャート】								
			見直し	自尊感情を高める【主】【共】	自尊感情を高める活動を年間6回以上取り組む。	「自分の良さは周りから認められている。」と肯定的に評価する児童を85%以上にする。【児童アンケート】								

1	たくましい体の育成	見直し	めあてをもち、自ら進んで健康・体力向上を図る児童を育てる【課】【主】	課題のある種目についてめあてをもち、家庭学習や体育の準備運動に取り入れる。	新体カテストにおける県平均以上の種目率を65%以上にする。【体カテスト】													
			毎日の給食残量状況を学級別にグラフに表し、毎月表彰する。	給食の残量が全校合わせて1.0kg以下の日を月の半分以上にする。【給食残量】														
2	教職員の授業力向上	★新規	児童が自ら考え、学ぶ授業をつくる【課】【主】	学期に1回、学年で互いに授業研究をし、授業を見る・見せる。	「勉強がよく分かる。」と肯定的評価する児童を90%以上にする。【児童アンケート】													
2	保護者・地域から信頼される学校の創造	新規	地域に愛着をもち、ほこりをもった児童を育てる【共】	年2回以上地域の人とふれあう授業をつくる。	「大津野が好き。」と言える児童を70%以上にする。【児童アンケート】													
		見直し	子どもの育ちが見える情報を積極的に発信する【共】	学級・学年だより・HPをタイムリーに月2回発行・更新する。	「学校の様子がよく分かる。」と肯定的評価している保護者を80%以上にする。【保護者アンケート】													

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。